

一つの約束

太宰治

青空文庫

難破して、わが身は怒濤に巻き込まれ、海岸にたたきつけられ、必死にしがみついた所は、燈台の窓縁である。やれ、嬉しや、たすけを求めて叫ぼうとして、窓の内を見ると、今しも燈台守の夫婦とその幼き女兒とが、つましくも仕合せな夕食の最中である。ああ、いけねえ、と思った。おれの凄惨な一声で、この団だんらんが滅茶々々になるのだ、と思った。喉のどまで出かかった「助けて！」の声がほんの一瞬戸惑った。ほんの一瞬である。たちまち、ざぶりと大波が押し寄せ、その内気な遭難者のからだを一呑みにして、沖遠くちゆう拉し去った。

もはや、たすかる道理は無い。

この遭難者の美しい行為を、一体、誰が見ていたのだろうか。誰も見てやしない。燈台守は何も知らずに一家団だんらんの食事を続けていたに違いないし、遭難者は怒濤にもまれて（或いは吹雪の夜であったかも知れぬ）ひとりで死んでいったのだ。月も星も、それを見ていなかった。しかも、その美しい行為は厳然たる事実として、語られている。

言いかえれば、これは作者の一夜の幻想に端を発しているのである。

けれども、その美談は決して嘘ではない。たしかに、そのような事実が、この世に在つ

たのである。

ここに作者の幻想の不思議が存在する。事實は、小説よりも奇なり、と言う。しかし誰も見ていない事實だつて世の中には、あるのだ。そうして、そのような事實にこそ、高貴な宝玉が光っている場合が多いのだ、それをこそ書きたいというのが、作者の生甲斐になつてゐる。

第一線に於いて、戦つて居られる諸君。意を安んじ給え。誰にも知られぬ或る日、或る一隅に於ける諸君の美しい行為は、かならず一群の作者たちに依つて、あやまたず、のこりくまなく、子々孫々に語り伝えられるであらう。日本の文学の歴史は、三千年來それを行ひ、今後もまた、変る事なく、その伝統を継承する。

青空文庫情報

底本：「道化の精神」大和出版

1969（昭和44）年2月28日初版発行

1992（平成4）年6月30日新装1刷発行

初出：青森県某誌

1944（昭和19）年頃

入力：青空文庫

校正：土屋隆

2005年1月15日作成

2011年1月31日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

一つの約束

太宰治

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>